

# アーバンヴォイド・ネットワークによる見えない庭の記述

政策・メディア研究科 池田靖史研究室所属  
修士課程1年 81124758  
澁谷 年子

## ＊研究概要

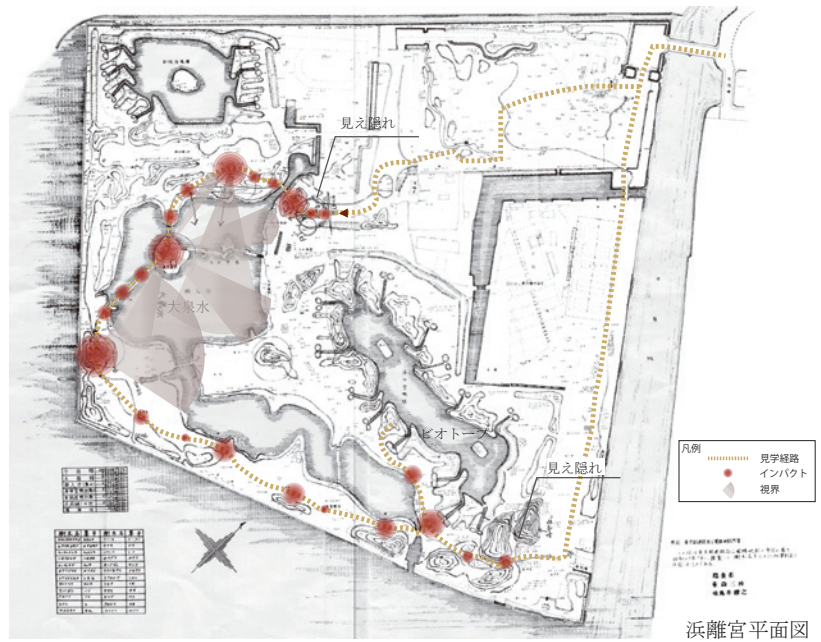
現代の日本の都市は、情報が錯綜していることが多く、都市の全像が見えにくい。私たちは個々の印象を集めた都市のイメージを持っているが、雑然とした都市を描く事が出来ないため、都市のアイデンティティが確立しているとは言い難い。本研究は、日本庭園の空間認識から抽出した部分の関係性から全体を感じる「見えない庭」を都市に応用することで、都市のイメージアビリティをあげ、アイデンティティをより高めることを目的とするものである。都市には、機能の更新と共に空地や廃校建築などのヴォイドが発生する。それらは、都市の中に点々と存在し、それぞれが孤立をしている。しかし、それらをネットワークすることで「見えない庭」を記述する事が可能である。しかし、現実で受け止められるかはプログラムとネットワークの関係が重要である。よって、研究課題の可能性、有効性を探り、よりリアリティーのある都市再生プログラムの提示が今後の課題である。そのため複数の庭園空間の分析と固有性が希薄化している都市のサーベイを行ったものが下記である。

## ＊活動内容

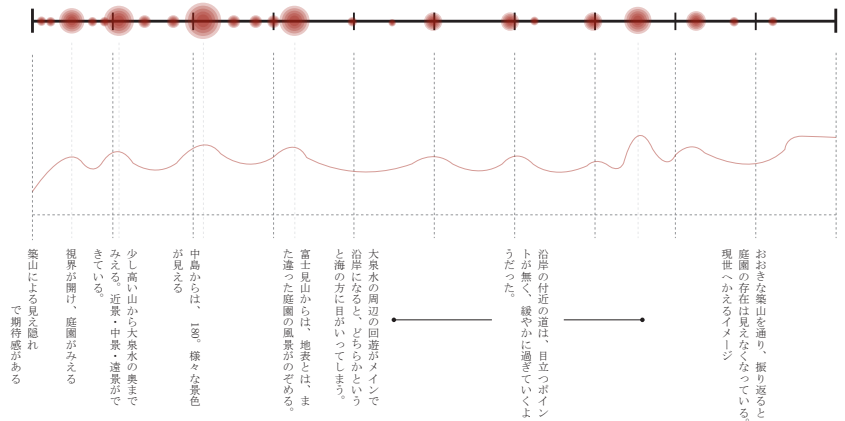
### 1. 東京都内で見られる日本庭園

#### 1-1) 小石川後樂園 (回遊式築山泉水庭園) の分析

延遼館跡を過ぎ、大泉水への入り口の間からのシークエンス効果を読み込み、それをインパクトの大小と空間の連続性をグラフに起こし、どのように感情が揺らいでいるかを恣意的ではあるが調査しました。庭園のすべてを歩いたわけではないが、大泉水付近の100m 間隔には、インパクトがある風景が配されていて、その場から次の場への段階的空間づくりがなされていた。一方、その先は、見せ場おという場はなく平穏な経路になっていた。

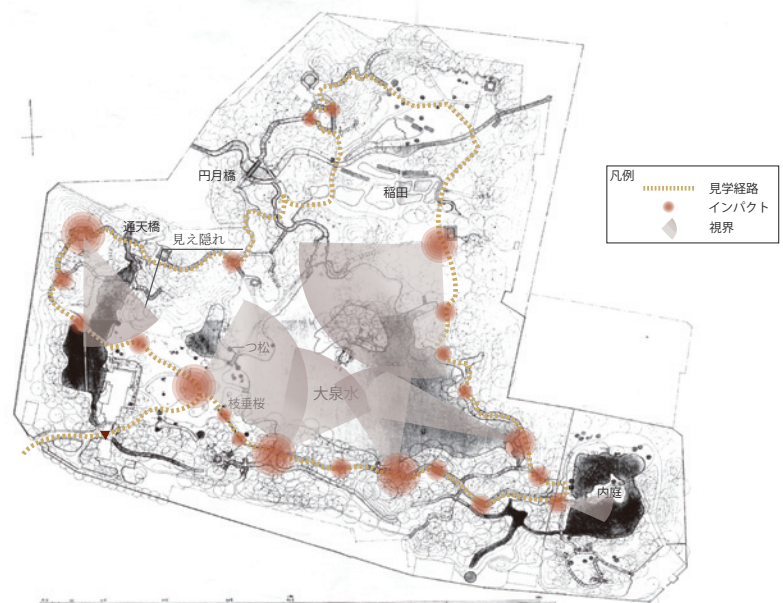


インパクトと空間の連続性のグラフ (1区間:100m)



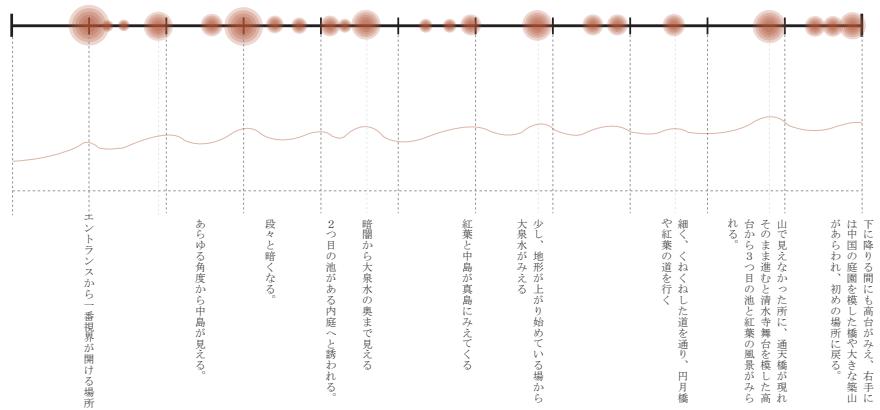
## 1-2) 浜離宮恩賜庭園（大名庭園）

こちらは大泉水をメインとしたインパクトの配置が見て取れる。前事例と合わせても、約 100m 間隔に記憶にのこる風景が広がるように設計してあるように感じる。人間が1つの風景を残像のように記憶できる距離や時間感覚が、もしかしたら 100m という基準なのかもしれない。浜離宮よりも小石川後楽園の方が、それを意識しているのが感じられ、見せ場というものが最後まで多くつくられているのは、小石川後楽園の方だとグラフの分布からわかる。



小石川後楽園平面図

インパクトと空間の連続性のグラフ



## 2. 京都市内で見られる多種の庭園

庭園をひとつあげても、様々な種類がある。神社の参拝経路も庭園のような空間づくりがなされている所もある。京都市内にある多種にわたる庭園を体感し、その場が如何にシークエンシャルな緩やかな空間が作られているのかを探った。写真は、その一部である。京都最古の神社とされる上賀茂神社の参拝経路は、短いながらも奥行き感じさせる街路が作られていた。また銀閣寺は、見立てによる抽象的な庭園で、空間を連続的に想像させる作りであった。今後、体感と文献による空間の考察を行う予定である。



上賀茂神社



銀閣寺



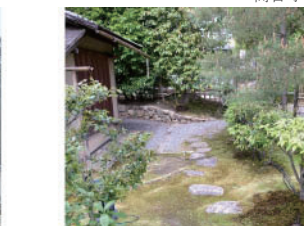
高台寺



参拝経路のシークエンス



インパクトを与える抽象的な庭園



茶室の露地

### 3. 固有性が希薄化している都市サーベイ

都市のイメージがあると思われる渋谷、池袋、上野・浅草などの副都心でも急激な商業化による都市更新から都市の固有性が失われている場所がある。今回、渋谷区神宮前原宿周辺を対象に都市サーベイを行った。ファッションストリートとして名高いキャットストリート周辺は、かつて都心とは思えないほどの農耕地で「穏田村」と呼ばれ、渋谷川（旧穏田川）を軸とした自然と共存の生活が存在していた。また、村住民同士は、川を介して近隣のコミュニティを形成し、皆が憩う場であった。しかし、現在は商業化が急激に進み、用途地域などの変更もあり、空き店舗や空地などのヴォイドが増加し、元々見えていた地形や生活風景、歴史の痕跡が見えなくなってしまう都市らしさが希薄になりかけていることが、フィールドワークから分かった。他にも、このような都市の埋もれた昔の痕跡を残す場があると考えられる。

#### - 古地図から読む都市の変遷 -



#### - 川の流れの変化 -



#### - 人口の地形がつくられている -



#### - 大規模なヴォイドの発生 -



#### \* 今後の活動予定

今後は、固有性を失いかけている他都市の調査を行い、都市の比較や都市更新の速度によって、どの程度の変化率があるのかを分析を試みる予定である。その際に、都市の歴史や記憶を詳しく理解しなくてはならない点で、人間の主観的な記憶の部分と実際の敷地での痕跡とに差があることが否めないが、客観的に2つの擦り合わせを行いたいと考えている。また、都市アデンティティーが希薄化した都市において、その改善策をソフトとハード面で考察し、より良い都市空間を提案することを目指した研究を行うのが課題である。